

たつの市定例記者会見資料	
発表年月日	令和7年5月7日（水）
担当課	教育事業部歴史文化財課
電話	0791-75-5450

報道機関各位

賀茂神社 「石造獅子3軀」を市指定文化財に

たつの市教育委員会は、4月30日付けで、下記の文化財を市指定有形文化財に指定しました。

記

- 1 文化財の名称 石造獅子3軀 附 残欠1点
- 2 文化財の所在 賀茂神社(たつの市御津町室津74)

- 3 文化財の概要と特徴

当資料は、賀茂神社に伝わる2軀1対と、2軀1対のうち1軀のみが残った計3軀の石造獅子である。これらはいずれも像容や石材から中世に中国で造られ、その後日本へもたらされた宋風獅子と考えられる。

2軀1対のものは白緑色の石材を用いた岩座の上で身体をくねらせて座るもので、それぞれ玉と子獅子を持つ。1軀が残ったものは赤灰色の石材を用いた無文の台座の上で身体を伏せながら頭を右に振るもので、玉を持つ。

これらは中世にさかのぼると考えられるもので、たつの市域の石造獅子の中でも最古級の貴重な存在である。また、宋風獅子は現在、全国で十数例が知られているのみで、複数例の獅子からなる当資料は全国的にも稀有な存在であると同時に、賀茂神社の位置する室津が瀬戸内海における国際交流の要地であったことを示すものである。

*別紙参考資料参照

- 4 取材について

- (1) 指定文化財の写真撮影について

時 間 令和7年5月7日（水）13時～16時30分

場 所 たつの市立埋蔵文化財センター（たつの市新宮町宮内16）

(2)関係者連絡先

所有者 岡 研作さん(賀茂神社代表役員) TEL : 0791-323-3171
専門家 井形 進さん(九州歴史資料館学芸員) TEL : 0942-75-9575
担当課 たつの市教育事業部歴史文化財課 TEL : 0791-63-0907

5 特別公開について

(1)会 期 令和7年6月7日(土)～6月22日(日)
9時30分～17時(入館は16時30分まで)

(2)場 所 たつの市立室津海駅館(たつの市御津町室津457)
※休館日:毎週月曜日

(3)入館料 高校生以上200円、小・中学生100円
※市内在住・在学の小・中学生は無料

(4)記念講演会

講師:井形 進さん(九州歴史資料館学芸員・研究員)

日時:令和7年6月15日(日) 13時30分～15時

参加費:無料(ただし室津海駅館入館料は要)

定員:30名(要申し込み・先着順)

申込方法:室津海駅館窓口または電話にてお申し込みください。

(5)特別公開に係る連絡先 たつの市立室津海駅館(たつの市御津町室津457)
TEL : 079-324-0595

石造獅子 2 軀 1 対 写真



2 軀 1 対 玉取り獅子(前)



2 軀 1 対 玉取り獅子(後)

(法量) 総高 44.7cm 像高 32.0cm 台座高 12.7cm
体長 25.0cm 長辺 29.5cm 短辺 18.5cm



2 軀 1 対 子持ち獅子(前)



2 軀 1 対 子持ち獅子(後)

(法量) 総高 30.0cm 像高 19.0cm(上体欠) 台座高 11.0cm
体長 23.1cm(上体欠) 長辺 29.5cm 短辺 18.5cm

石造獅子 1 軀 写真



1 軀 玉取り獅子(前)



1 軀 玉取り獅子(後)

(法量) 総高 12.0cm 像高 9.9cm 台座高 2.1cm
体長 15.0cm 長辺 15.8cm 短辺 8.0cm

附 残欠 1点



残欠 1点

(法量) 長辺 9.4cm 短辺 6.8cm 厚さ 3.5cm

文化財の新指定について（石造獅子3軀 附 残欠1点）

1. 賀茂神社概観

所在地 兵庫県たつの市御津町室津74

宮司 岡 研作

神社の所在する室津は、『播磨国風土記』にも名が見える古代以来の良港として知られており、平安時代には京都賀茂別雷神社の御厨が設置された。神社のはじまりも御厨の置かれた折に勧請されたものと考えられる。

現在、賀茂神社は本殿ほか8棟の建造物が国指定重要文化財、拝殿ほか2棟の建造物が市指定文化財として指定されている。また、奉納された絵馬のうち、神馬図絵馬が国指定重要文化財、蘭船図絵馬が市指定文化財に指定されている。境内に自生するソテツも国内最北端の自然分布群として県指定天然記念物に指定されている。ほか、毎年四月に執り行われる小五月祭で奉納される棹の歌も、県指定無形民俗文化財に指定されている。

2. 経緯

賀茂神社に伝来する石造獅子は宋風獅子と考えられるものである。3軀の獅子が伝わっており、2軀1対と、1対のうちの1軀が残ったものに分かれる。

宮司の岡研作氏によれば、いずれも十数年前に神庫へ移す前までは、長年本殿裏の軒下に置かれていたようである。損傷が激しかったため、(公財)三菱財団による第6回(2024年度)三菱財団文化財保存修復事業助成を受け、令和6年8月より(公財)元興寺文化財研究所に保存修復委託を依頼し、令和7年2月に修復が完了した。また、井形進氏(九州歴史資料館学芸員)と神戸佳文氏(播磨学研究所研究員)に実見を依頼し、歴史文化財課にて内容について検討した。

3. 資料について

- ・2軀1対 玉取り獅子 総高44.7cm 像高32cm 14世紀半ば

岩座の上に体をくねらせるようにしながら坐っている。口は口角を後方に引き伸ばすようにして開いている。鈴のついた首輪をつける。両前足で玉を持っており、玉には文様があり、リボンがつく。四脚にはくっきりと爪を表現する。尻尾には細かく毛筋が刻まれ、右後足下肢を覆いつつ股間に巻き込んでいる。岩を表した台座は中程の高さを大きく内側に窪ませながら、全体に大小の窪みを比較的自然的な様子で表現する。像の表面は全体的に荒く仕上げる。石材は白緑色を帯びた均一な砂粒に小礫を含むものである。なお、玉を取る右前足は破砕して小片となっていたものを修復したものである。

- ・2軀1対 子持ち獅子 総高30cm 像高19cm(上体欠) 14世紀半ば

上体を欠失しているが、現存している部分は像容の基本については左右を反転させて玉取獅子と共通すると考えられる。前脚には子獅子を持つ。尻尾は根元

近くに二本の毛束を沿わせながら、左足下肢を覆って股間に巻き込んでいるが、毛筋はあらわしていない。背筋をくっきりとあらわす点は玉取り獅子と異なる。石材は白緑色を帯びた均一な砂粒に小礫を含むものである。

これら2軀1対の獅子の時期は、14世紀初頭頃の所産と考えられる福岡県飯森神社例と、文献の記述から15世紀初頭頃のものと考えられる山口県三隈熊野神社例の中間的な特徴を持つことから、14世紀半ばのものと考えられる。

・ 1 軀 玉取り獅子 総高 12 cm 像高 9.9 cm 13 世紀半ば

獅子は隅足も文様もない平面長方形の台座の上に伏せ、右前脚でリボンがついた玉を押さえながら頭を右に振る。玉は無文でやや扁平。尻尾は反時計回りに巻き込んで、先端が右脇腹位置にあらわされる。像の表面は比較的平滑に仕上げる。石材は赤灰色を帯びた砂質のもので寧波産の堆積性凝灰岩に類似する。

時期は、13世紀初頭の福岡県宗像大社例や13世紀半ばの長崎県地の神島神社例により類似する特徴をもつことから、13世紀半ばのものと考えられる。

・ 附 残欠 1 点 長辺 9.4cm 短辺 6.8cm 厚さ 3.5cm

3 軀の獅子と共に伝わった石片である。材質は2 軀 1 対の獅子の石材と同じ産地であると考えられ、3 軀の獅子とは別の石造物の残欠である可能性が高い。

＊【参考】井形進 2021「兵庫室津の賀茂神社の宋風獅子3 軀」『九州に遍在する大陸系彫刻の研究—薩摩塔を中心とする石造物を主として—』九州歴史資料館
神戸佳文 2025「たつの市御津町室津 賀茂神社 石造狛犬 調査報告」
公益財団法人元興寺文化財研究所 2025『修理調査記録報告書』

4. 市指定の理由

賀茂神社の石造獅子は、2 軀 1 対のものと、2 軀 1 対のうちの1 軀が遺ったものからなる。いずれの個体も日本の獅子とは異なる像容や石材をもつことから、中国から招来された宋風獅子であると考えられる。

時期はいずれも中世にさかのぼると考えられ、たつの市域にて現在確認されている石造獅子の中でも最古級のものである。

また、宋風獅子は現在九州を中心に十数例程度が確認されているのみであり、賀茂神社のものは現在確認されている中では県下唯一のものである。複数例の宋風獅子を有する場所としても賀茂神社は福岡県皇祖神社に次ぐ全国で2 例目となる。これは、賀茂神社の所在する室津が中世の瀬戸内海における国際交流の要地であったことを示すものである。

これらのことから、本件はたつの市の歴史や文化を語る貴重な文化財であり、極めて高い歴史的価値を持つ。

したがって、この市域の貴重な文化財を積極的に保存し、未来へ継承するための行政的施策として、市指定有形文化財(彫刻)として指定することが有効であると考えられる。獅子と共に伝わった残欠についても、後世に記録を残すため、附指定として保存を図る。

参考：石造獅子3軀の関連資料



第1図 宗像大社例（二軀一対：建仁元（1201）年の銘あり）



第2図 飯盛神社例（二軀一対：14世紀初頭頃か）



第3図 三隈熊野神社例（二軀一対：15世紀初頭頃か）



第4図 地の神島神社（玉取り獅子：13世紀半ばか）



第5図 太祖神社の二例（二軀一対と一軀（玉取り獅子）のみ）

図表出典
第1～4図、表1
井形進 2021 『兵庫室津の賀茂神社の宋風獅子三軀』
『九州に偏在する大陸系彫刻の研究—
薩摩塔を中心とする石造物を主として—』九州歴史資料館

第5図
伊東史朗 1989 『宋風の獅子』『日本の美術』
No.279 狛犬 至文堂

【表1：全国宋風獅子一覧表（井形2021より作成）】

都道府県	所有者等	形態	備考	都道府県	所有者等	形態	備考
1 兵庫県	賀茂神社	二軀一対（玉取り、子持ち）		11 長崎県	海寺跡	二軀一対（玉取り、子持ち）	
2 兵庫県	賀茂神社	一軀（玉取り）		12 長崎県	志々伎神社沖の宮	一軀（子持ち）	
3 福岡県	宗像大社	二軀一対（玉取り、子持ち）	国指定重要文化財	13 長崎県	地の神島神社	一軀（玉取り）	
4 福岡県	飯森神社	二軀一対（玉取り、子持ち）	福岡県指定文化財	14 鹿児島県	飯倉神社	二軀一対（玉取り、子持ち）	南九州市指定文化財
5 福岡県	観世音寺	二軀一対（玉取り、子持ち）	国指定重要文化財	15 鹿児島県	水元神社	一軀（玉取り）	
6 福岡県	首羅山遺跡	二軀一対（玉取り、子持ち）	久山町指定文化財	16 鹿児島県	益山八幡神社	二軀一対（雄、雌）	
7 福岡県	風浪宮	一軀（双獅子）	福岡県指定文化財	17 山口県	三隈熊野権現社	二軀一対（玉取り、子持ち）	長門市指定文化財
8 福岡県	太祖神社	二軀一対（玉取り、子持ち）	篠栗町指定文化財	18 岡山県	熊野神社	一軀（子持ち）	赤磐市指定文化財
9 福岡県	太祖神社	一軀（玉取り）		19 京都府	由岐神社	二軀一対（玉取り、子持ち）	国指定重要文化財
10 福岡県	若宮八幡宮	一軀（咩形）					